

第2章 京都観光振興計画2020

1 計画概要

1 計画期間

2014年（平成26年）10月～2020年（平成32年）度末

2 計画名称

京都観光振興計画2020

3 策定趣旨

京都市には、世界に誇る歴史や伝統、普遍的な価値である数々の遺産、景観、まちなみ、くらしがあります。

そして何より、それらを受け継いできた京都市民というかけがえのない「ひと」がいます。

時代とともに移り変わる観光を取り巻く状況の大きな変化を市民一人一人が危機感を持って乗り切り、これまで以上に確固たる京都の地位を確立し、京都が世界に貢献するために、京都観光振興計画2020を策定します。

4 基本理念

3つの基本理念に基づいて、計画を推進します。

- (1) 世界中の人に京都に行きたいという「あこがれ」をもっていただき尊敬される京都を目指します
- (2) 丹精込めた「おもてなし」により、京都を訪れた方々に、多くの感動を届けます
- (3) 市民、社寺関係者、文化関係者、観光関連業界、地元企業、大学・学生、観光客など、京都を愛する皆様とこの計画を共有し、心をつなげて実現に取り組めます

「未来・京都観光振興計画2010⁺⁵」において、京都観光を「量から質へ」転換させてきました。本計画ではこれまで以上に質の向上にこだわり、感動の先にある「あこがれ」や「尊敬」を持っていただける京都を実現することを目指します。

国内外のお客様をお迎えしてきた京都において、長い時間をかけて育まれた「おもてなし」の心こそが、京都の礎です。これまで以上に丹精込めて、京都を訪れるすべての方々をもてなし、人と人の心のこもったふれあいから生まれる、あたたかい感動を京都にお越しただく全ての方々に届けていきます。

5 目指す姿

世界があこがれる観光都市

京都は、ものづくり（物質文化）・ものがたりづくり（精神文化）の両者が相互に刺激を与え、高め合い、感性・匠の技・こころを継承し、それらの融合・深化によるまちづくりを千年を超えて続けてきました。京都が大切にしてきた暮らしや生き方、これが京都への「あこがれ」の源泉です。

この世界でも類を見ない日本の精神性を体現した上質な文化、奥深さを求めて、世界中から多くの方が京都を訪れます。

この奥深い魅力・京都の本質を未来永劫、守り、磨き、育み、活用を進め、世界に向けて発信し続けることで、この京都を「日本の宝」ととどまらず「世界の宝」とし、本物の観光都市としてあこがれられる都市を目指していきます。

6 2020年の4つの観光都市像

(1) 多様な景観資産、自然景観と文化資産を守り、育て、創造的に活用を進めるまち

歴史の重層性を実感できる建造物や庭園などの多様な景観資産、自然景観と日本を代表する伝統文化・芸術・すまいや生活の文化、高い感性と匠の技を備えた伝統産業などの文化的資産を守り、育て、創造的に活用を進めていきます。

世界中の人々にこの魅力を発信し、世界からあこがられるまち京都を目指していきます。

(2) 旅と暮らしの安心・安全が世界一しっかりと守られているまち

国内外から多くの人々が訪れる京都においては、世界一安心安全な都市であることが求められています。災害時や緊急時の安心・安全の確保、防犯や食の安心・安全を徹底し、観光客の皆様にとっても、市民の皆様にとっても、安心・安全がしっかりと守られているまちづくりを進めます。

(3) ひとと公共交通を優先する、歩いて楽しいまち

歩く観光スタイルを広め、観光地や都心の交通渋滞を解消するとともに、観光客や市民の皆様による公共交通の利用増が更なる利便性の向上を実現する好循環を作り出し、ひとと公共交通を優先する歩いて楽しいまちをつくり上げていきます。

(4) 市民ぐるみで観光客の皆様をあたたかくお迎えする、おもてなしのまち

昭和31年(1956年)に制定された「京都市市民憲章」においても、既に、旅行者をあたたかくおむかえし、美しいまちをきずく「おもてなし」を掲げています。京都の魅力を再認識し、自分のまちに誇りを持つ、京都の生活に根付いた「門はき」や市民や企業の皆様と共に実施している「世界の京都・まちの美化市民総行動」によるまちの美化、京都ならではの「おもてなし」を極め旅行者の皆様をあたたかくお迎えします。



- ・ 観光客を魅了するやさしさあふれるまちづくりを進め、市民にとっても「京都に住んでいてよかった」と実感できるまちを実現する
- ・ 観光が産業・文化と融合し、京都の経済をけん引することにより、京都のブランド価値を向上させ、安定した雇用の創出など観光による経済効果を京都市全体に還元し、市民生活の向上に寄与
- ・ 観光立国の実現を「京都の観光」がリードする

7 計画目標

「世界があこがれる観光都市」を目指して、191事業の取組を進めていくうえでの計画の進ちょく状況を図る指標の一つとして以下の4つの目標を設定することとします。

京都を愛する皆様一人一人と計画を共有し、目標達成に向けて、一丸となって取組を進めていくことはもちろんですが、目標を目指して取組を進めることを通じて、質の高い「おもてなし」により感動を届け続ける、京都市域全体に観光の効果を波及させ続けるなど、目標達成までの日々の取組過程も大変重要です。一人一人の一つ一つの着実な取組の積み重ねが京都への「あこがれ」を形作っていきます。

- この計画を通じて、世界中の人に京都に行きたいという「あこがれ」をもっていただく目標として、**京都を再び訪れたいという「再来訪意向」、親しい友人に京都観光を勧めたいと思う「紹介意向」について、毎年着実に評価を向上させ、より100%に近づけていきます。**

とりわけ、「**大変そう思う**」の回答割合について、日本人、外国人とも**80%以上**を目指します。

(現状)再来訪意向	大変そう思う～ややそう思う	日本人95.4%	外国人91.1%
	大変そう思う	日本人57.8%	外国人42.3%
紹介意向	大変そう思う～ややそう思う	日本人88.2%	外国人96.1%
	大変そう思う	日本人39.0%	外国人50.7%

- 丹精込めた「おもてなし」により、京都を訪れた方々に、多くの感動を届ける目標として、京都滞在中に「おもてなし」を感じたかをお聞きする「**京都のおもてなし度**」について、新たに日本人・外国人にお聞きし、**毎年着実に評価を向上させ、より100%に近づけていきます。**

とりわけ、「**大変そう思う**」の回答割合について、日本人、外国人とも**80%以上**を目指します。

(現状)「京都市民のおもてなしを感じたか」	
大変そう思う～ややそう思う	日本人54.1%(外国人未調査)
大変そう思う	日本人12.2%(外国人未調査)

- 世界があこがれる観光都市として、**外国人宿泊客数 年間300万人**を目指します。

(現状) 外国人宿泊客数 113万人

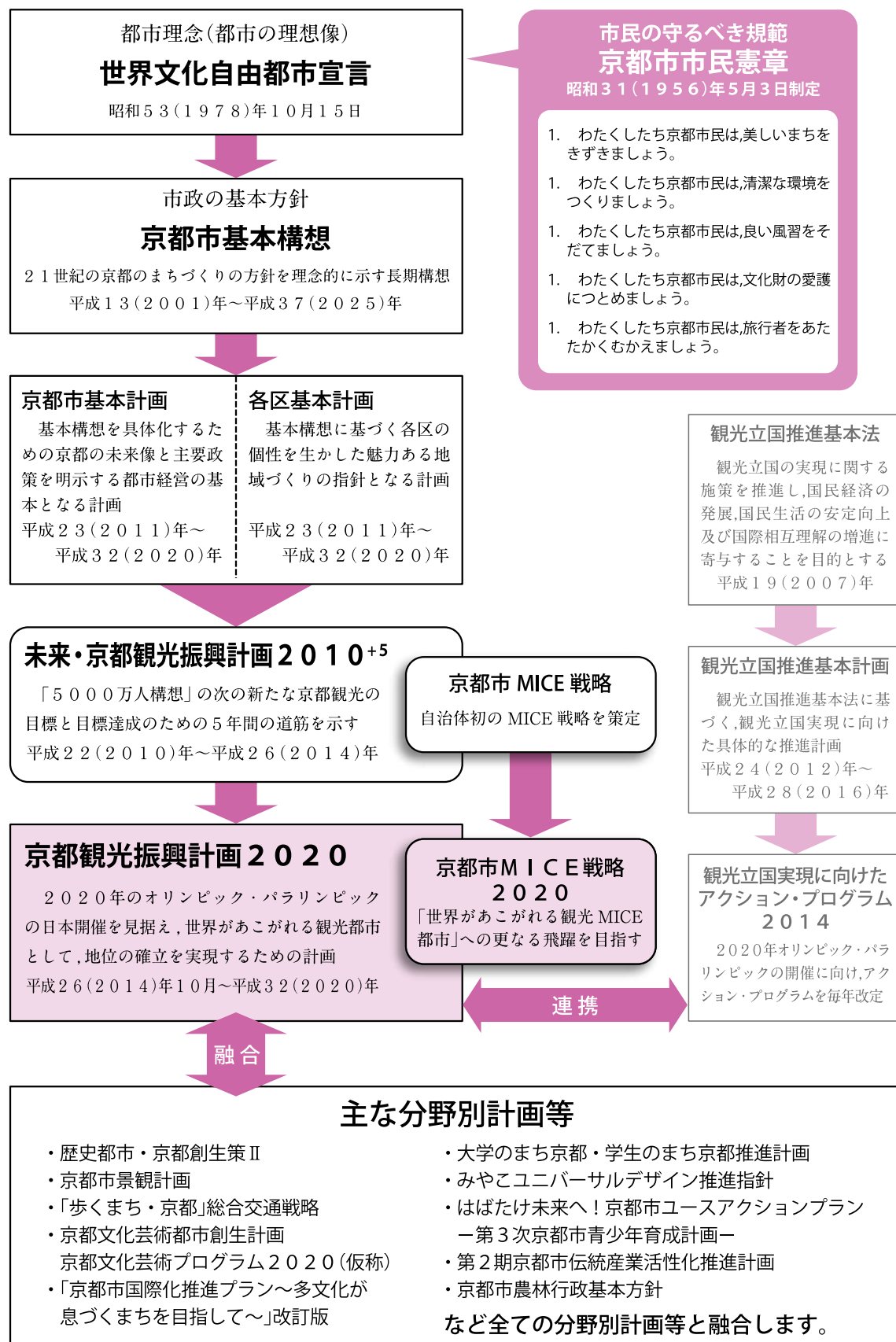
- 安定した雇用の創出など観光による経済効果を最大限に高め、京都市域全体に還元し、市民生活の向上に寄与する目標として、**観光に関連する京都の観光消費額 年間1兆円**を目指します。

(現状) 観光消費額 7002億円

※現状については「平成25年京都市観光総合調査」の数値を記載しています。

2 計画の位置付け

本計画は、京都市基本構想に基づく京都市基本計画の分野別計画として策定します。



(参考)世界文化自由都市宣言

都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。

昭和53年10月15日

京 都 市